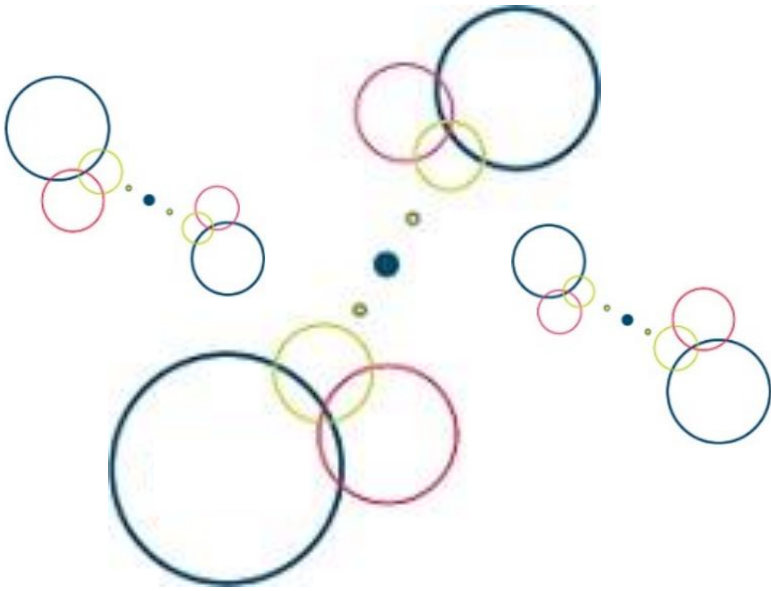


廣瀬仁のルポルタージュ

靈的人生を歩むためのヒント

2025/12/10





「E21-F ④」 アルトヌウロウイ ARUT.NOROUY 足立育朗

廣瀬仁の能力のひとつ、考え方を盗む能力

わたしの人生は、激動の30代がもうすぐ終わり、²⁰²⁶年と同時に「未知数の10年」

に突入しようとしています。20代は苦しみの時代であり、「かんなんしんく艱難辛苦」の状況を乗り

越えた時期、30代は激動の時代であり、「しつぷうどとう疾風怒濤」の状況にたいおう対応してきた時代、そ

れが現時点のわたしの地上世界の人生です。

わたしの人生を他人に語ったことはあまりありません。語る氣もなければ、わたしの人生など、正直どうでもいいです。それよりも、「他人の靈性の進化」が一番氣になりますし、それが、「廣瀬仁の話の中心」です。何のために生まれ、何のために生きていくのか、それは「他人の靈性の進化のために役立つため」だけが話の中心です。

生きる意味は、「人々の靈的進化に貢献できるか否か」がすべてであり、人々の靈的進化に貢献するための一番の方法が「イエスの教えであるシルバーバーチの靈訓の布教活動」であり、それは「無償の奉仕と自己犠牲の實踐」であり、「欲望のコントロール」と「苦しみへの感謝」を^{つた}伝えることです。

パブロ・ピカソは「良い芸術家はコピーし、偉大な芸術家は盗む」と述べていますが、廣瀬仁の能力のひとつは他者の良い部分（アイデア、技術、スタイル）をコピーするのではなく、複数の要素を吸収・再構築して「自分だけの新しい何か」を生み出す、という能力があります。これはビジネスやイノベーションの世界でもよく引用され、「單なる形だけの模倣」^{コピー}と「本質的な創造（盗む^{リメイク}再構築）」の違いを示唆する名言です。わたしは「再構築する能力」が非常に高いのです。

では、「一流は盗む」と「二流は模倣する」の違いは何なのでしょう？そもそも同じ知識、情報を与えても人間成長する人と、まったく人間成長しない人に分かれるのは何故なのでしょう？それは過去に何度も「理解力の差」と述べていますが、では、理解力とは何なのでしょう？

その答えを述べるならば、「**一流は考え方を理解し盗む**」であり、「二流は知識、技術だけを理解しようとし模倣しようとする」差であり、わたしが様々な人から盗んでいるのは「考え方」であり、その究極系が「ナザレのイエスの考え方を盗む」なのです。また、わたしは「スピリチュアリズム普及會」ふきゅうかいの思想を盗み、「足立育朗」や「永伊智一」などの考え方を盗み、「スピリチュアリズムの思想體系の再構築」たいけいをしています。これが他の人々との明確な違いであり、わたしの大きな能力なのです。

また、音叉ヒーリングにしても、スピリチュアリズム普及會ふきゅうかいの「スピリチュアル・

ヒーリング」の考え方を基軸に「アキュトニックス いがくautonics統合醫學研究所」の知識、情報、「増川い

づみ」の知識、情報を、「著書から考え方を盗む」に成功しており、そこから音叉ヒーリングの理論、知識を「再構築」しています。要するに、廣瀬仁の能力とは「本質を盗み、そこから様々な情報を元にアレンジをし、更なるレベルに再構築する能力」があるのです。

EXA PIECO

靈の心優位になってない利他、奉仕はすべて欺瞞ぎまんである

靈的眞理の中で「靈的視野」と「犠牲精神」と「道具意識」という言葉が出てきます。ナザレのイエスは『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系たいけい』

が地球人類共通のバイブルになることを願っています。地球人類に靈的視野をもたらすこと、それが靈的眞理の普及の意味のひとつです。

古代靈シルバーバーチは、イエスの教えを100%正しく地上世界に届けてくれました。それは、歴史上のどの偉人、賢人と呼ばれる人間の足元にも及ばない最高次元の神の教えを地上人類全員に届けられる時代の到来を意味し、わたし達は「ナザレのイエス」の考え方を共有し、誰しもが靈的眞理を信仰實踐すればイエスと同じレベルまで靈的進化できる人生のガイダンスを手に行っているのです。

その人生のガイダンスは「靈優位の努力」、「調和の實踐」、「苦しみの甘受」、「自然法則に適った正しい生活習慣を身につける」ということに集約されており、如何に日

ルーティン

常生活を「肉の心優位」から「靈の心優位」になるか、それが靈的眞理を知った者の

正しい生き方です。そのための努力が何個かありますが、

- ① 生命いのちの調律（音叉セルフヒーリング、禱いのり、瞑想）
- ② 靈的眞理（シルバーバーチの靈訓、スピリチュアリズムの思想體系たいけい）の學習がくしゅう
- ③ 肉の心D I K A G H JのECHO意識を滅却する（欲望のコントロール）
- ④ 神と自然法則への感謝、背後靈への感謝、両親への感謝（苦しみへの感謝）
- ⑤ 靈的人生を歩むための心構えの確立（靈的視野、犠牲精神、道具意識）

そもそも、靈優位になってなければ、それはすべて靈的成長に繋がらないので意味がありません。EXA PIECO「靈の心優位になっていない利他、奉仕はすべて欺瞞ぎまんである」、何故な

ら「人の役に立つとは、人の靈的成長に役立つこと」が最優先であり、靈的成長に繋がらないサポートは結局のところ、マイナスの影響を与えてしまうケースが圧倒的大多数だからです。

癌は利己主義、物質主義の結果

わたしは「利他、奉仕の實踐」という言葉ではなく、「調和の實踐」という言葉に翻訳をしています。何故なら、「神意^{あい}とは調和を成就すること」であり、調和こそが神の攝理^{せつり}だからです。「調和とは神意^{あい}の實踐である」、だから調和と神意^{あい}はセットであり、わたしは「調和」というものを神の意志と見做しています。「神意^{あい}は調和に向か

っていないかったら何の意味もない」、これを強調しています。そもそも靈的成長とは

調和を實踐することで自動的に果たされます。靈的墜落はその反対で、不調和を實踐すれば自動的に幽界最下層行きに近づきます。

靈的人生の最大の焦点は「調和の實踐」になりますが、そもそも地上人類は調和の意味を分かっていません。そして肉の心の ECHO 意識を増大させる方向の文化を築いており、そのため現代地球文化は破滅一步寸前の状態です。ECHO 意識とは利己主義と物質中心主義のことであり、これが地上世界の癌という症状の理由そのものにも繋がっています。

物質中心主義は「中性子」の歪み、利己主義は「陽子」の歪み、これらが組み合わせ、利己主義、物質主義が過剰になると「癌」という症状が表れます。癌とは生き

方全般が間違っていることの証明なのです。

イエスの教えの信仰実践と普及こそが最大の調和

地上世界最大の調和は「靈的眞理（シルバーバーチの靈訓、スピリチュアリズムの思想體系^{たいけい}）」の「信仰實踐」と「靈的眞理の普及」、この一言で終わります。そこにブラサルファが存在するだけであり、『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系^{たいけい}』以上の叡智は地上世界には存在しません。『波動の法則』や『よびとやむみな』などの靈界通信も、『シルバーバーチの靈訓』を超えるものではありません。惑星地球に『シルバーバーチの靈訓』以上の教えは現時点、存在しないといつてもいいかもしれません。無論、地球人類が靈的に進化したならば新しい啓示は送ら

れてくるでしょうが、それはだいぶ先の時代の話であり、現時点では考えなくてもいいことです。

どうぶつ達を護ることは人間の責任と義務

イエスを総指揮者にした靈界主導の「地球人類救済計画」は、イエスの地上再臨を
中心とし、スピリチュアリズム普及會が『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュア
リズムの思想體系』を地上世界に広めることが当面の目的です。それにより、地上世
界の宗教を根絶させなければ、延々と地上人類の死後の幽界地縛靈という悲劇は終わ
らないからです。「音叉によるセルフヒーリング」は靈優位のためのひとつの手段で
あり、生命の調律として最高峰の手段ではありますが、それはあくまでも靈優位のた

めの手段の普及であって、地球人類救済計画の最大の目的ではありません。

EXA PIECO

調和の實踐は「靈の心優位」が絶対条件ですが、その上で調和にはランクが存在します。調和の實踐の究極系は「無償（※無料ではない）の奉仕」と「自己犠牲」を通して行う必要があります、また他の生命を尊び、「地球環境と、地球に暮らす全ての生態系を蘇生すること」が調和の本質です。

なので、どうぶつ達を護ることは人間の責任と義務であり、どうぶつ殺戮をし、肉食をしている限り、その殘虐非道な行いの結果から幽界最下層で地獄の苦しみを味わうのは避けられません。それは神の攝理^{せつり}だからです。地上世界最大の蛮行は何かと質問されたら、「どうぶつ虐待が地上人類最大の罪」と迷わず答えます。それは、どう

ぶつ虐待が地上世界の汚点である「飢餓、貧困」の理由に直結し、精神疾患、利己主義者の増大の最大の原因にも直結しているからです。

イエスの教えに従って生きているに過ぎない

2025年が終わり、廣瀬仁の30代も終わろうとしていますが、30代は激動の時代であり、「疾風怒濤」しつぷうどとうの状況を少し説明するならば、2016年や2021年は信じていた人間からの裏切り行為があったり、2017年〜2019年は海外にいる時期が長かったのですが、2017年は憑依された人間に殺されかけたり、ラオスのルアンパバーンで臨死して、そのままラオスの臨死で地上世界をフェードアウトの予定が、当初の地球人類救済計画のスケジュールよりも地上人類の状態が地球人類史上最低まで落ちていたこともあり、やむな

くスケジュールにない地上世界のやり直しをすることになりました。

わたしの人生は、「かんなんしんく艱難辛苦」の20代、「しつぷうどとう疾風怒濤」の30代というように激動の人生を送っています。この時代は

2000年～2100年まで「33万年サイクル（※フォトンベル

ト突入の時期）」なので、1990年代までの生き方はまったく通用しない時代であり、誰

しもが時代のへんせん變遷の流れの速さに息切れをしていると思います。しかし、イエスが再

臨した靈的新時代では、そうしたへんか變化にたいおう對應し續ける必要があります。

そもそも、わたしは本来、音叉アキュトニックスヒーリングをつた伝える役割ではありませんでした。そ

の役割は「いacutonics統合い聲學研究所」の知識、情報を元に「増川いづみ」博士ががス

ピリチュアリズムが明かした靈的眞理と融合させ、「星信仰の復活」の代表者になる

スケジュールだったのですが、増川いづみ博士が靈的に墜落している状態であり、あまりにも靈界主導の「地球人類救済計画」^{スピリチュアリズム}に反した方向に生きているので、わたしが増川いづみ博士の變わり^かに「音叉ヒーリングによる星信仰の復活」を引き受けているような状態です。

イエスや靈界は「スピリチュアリズム普及會」^{ふきゅうかい}のみが地上世界で唯一、調和のとれたコミュニティと述べており、他のコミュニティはすべて靈界の意圖^{いと}に反した方向であると述べています。なので、スピリチュアリズム普及會^{ふきゅうかい}以外に靈界の上層部からサポートの入っている組織は存在しません。その事実を受け入れ、生き方を改めるか、地上世界のEGHO^{エー・エー}的生き方を貫いて、死後に幽界最下層で地獄のような苦しみを受ける選択をするかは、皆さんの顯在意識^{D I K A G}の自由意志に一任されています。

わたしはイエスの地上再臨も認め、イエスの教えに従って信仰實踐の生き方をしてきましたが、それはスピリチュアリズム普及會ふきゅうかいの教えに従っているから現時点は靈界からのサポートが入っているに過ぎません。

イエスを地球圏リーダーの総指揮者と認め、従っている

廣瀬仁の人生觀は、「正しい神と自然法則への信仰心」が根底にあり、神がすべてに優先される、自然法則がすべてに優先されるという考え方です。そして、惑星地球文化で神に最も近い者は「ナザレのイエス」であり、靈界の億万の存在がイエスを地球圏リーダーの総指揮者と認めています。イエスの教えに反するということは、靈界の億万の存在すべてを敵に回す行爲であり、靈界からの献身的なサポートなど即刻剥奪されま

す。わたしもイエスを神の代理人、総指揮者と認め、イエスの地上再臨の受け皿であるスピリチュアリズム普及會の意向に従うという生き方をしています。

人間としての責任と義務を自覚する必要がある

わたしは、「靈優位、靈の心優位での調和の實踐」をしている地上人がまったくい

ないことに異常を感じています。まず、地上人生のスタートラインにすら立っていない

人の多さに驚愕しています。80億の地上人類の99.99%以上が、肉の心に支配されて生

きている現状に恐怖すら感じています。なぜ、肉の心に支配されているのかを背後靈

に質問すると、「自分の生命の自由と権利を一番に優先させているからだ。自分の生命

を大切にすることほど愚かなことはない」という返答が返ってきます。では靈の心優

位で生きるためには、どうすればよろしいのでしょうか？と背後霊に質問すると、「人

SEPULW

間としての責任と義務を顕在意識で自覚することである」と答えが返ってきます。責

D I K A G

任と自由は類似語でもあり対義語でもあり、義務と権利は完全なる対義語ですが、「生きるとは人間としての責任と義務を果たすこと」なのです。

しかし、肉の心に支配された人間は、^{D I K A G}顕在意識の自由意志を履き違え、「人間とし

D I K A G

D I K A G

てやるべきことの責任」を果たさず、「^{D I K A G}顕在意識のEGHO意識で、自由にやりたいこと

D I K A G

H

T

を優先」させた結果が、死後の幽界最下層での苦しみという因果應報に繋がってきま

おうほう

す。そうした愚かな生き方は、必ず死後に激しい後悔に見舞われるのです。だからこ

そ、死後に後悔しないためにも、「^{FUNEON}生命懸け（※背後霊懸け）^{SEPULW}で、調和という人間の

FUNEON

SEPULW

責任と義務を實行し続けること」が大切なのです。

忘れてはならないこと

この記事を読んでも何も生き方が變かわらない人間もいれば、人生觀が一變いっぺんし、靈的巡礼の旅のスタートラインにようやく立つ人間もいます。しかし、それはあくまでも人生のスタートラインであり、結局は利他、奉仕を實踐し続けなければ靈的成長は一切出来ません。靈的眞理を知った者には、靈優位で調和を實行する責任と義務が生じることを絶対に忘れてはなりません。利他、奉仕の心が地上人類に根付かない限り、地上世界のあらゆる問題は解決しないからです。

心に神意あいを、頭に知識を、魂に犠牲的精神を満たすこと、それこそが理想的生き方であり、わたしが人生で實踐し続けている生活習慣ルーティンのひとつなのです。